

点検の不動産利活用

一般財団法人日本不動産研究所

第46回



(上)写真左奥に「にぎわいの森」、右側が市庁舎
(中)エリア案内図 (下)案内看板



森の中の小屋をイメージしたそれを独立した4つの店舗からなるが、グリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」がオープンしたのだ。昨年5月行政によるグリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」がオープンしたのだ。

いなべ市は鈴鹿山脈の東方、三重県の最北端に位置し、岐阜県と滋賀県に接する人口約4・6万人の自然豊かな市である。03年12月に北勢町・員弁町・大安町・藤原町の4町が合併して誕生した。

そんないなべ市で19年に県内外から注目を浴びる出来事があった。19年3月に完成したいなべ市の新庁舎の隣に、同年5月行政によるグリーンイン

ラ商業施設「にぎわいの森」がオープンした。この施設を「SDGsの拠点」と位置付けている。内閣府は20年7月に33都市を20年

森林の放棄地だった場所に新

放棄地をSDGSの拠点に

お店の顔ぶれはパン屋、食肉加工屋(ソーセージなど)、カフェ、食料品店、パティスリーなどだが、名古屋や大阪

の10都市の一つに選ばれた。事業名は「グリーンクリエイティブいなべ／グリーンイン

ラ商業施設「にぎわいの森」から、カジュアルなSDGs推進を世界へ!」「にぎわいの森」は壮大なプロジェクトの出発点なのだ。

「山辺」をつくる

本事業の提案書によると、「鈴鹿山脈の麓のロケーションや手付かずの景勝地、清流、食材、森林、竹林、草花といった地域資源について『にぎわいの森』を拠点に官

本事業の提案書によると、

「海辺といえれば鎌倉・湘

南・山辺といえればいなべ市

というイメージを国内外で浸

透させたいという。実現した

うすごいことだ。

(津支所、不動産鑑定士・佐藤康範)

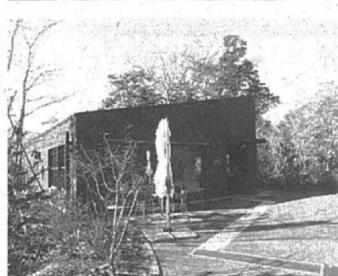
いなべ市と併せて建設されており、木々の多くそのまま活用して景観あるいは装飾に生かし、元々の地形を利用して季節風を取り入れ、また、雨水を貯留できる造りにもなっている。そして貯留された雨水はトイレの水等に利用し、更に地中熱も活用してCO₂排出の削減に貢献している。

新庁舎と共にグリーンインフラ商業施設として成功している「にぎわいの森」であるが、その位置付けは単なる商業施設に過ぎない。このようにグリーンインフラ商業施設として成功している「にぎわいの森」であるが、その位置付けは単なる商業施

ていた。18年のいなべ市全体の総観光入込客数が約43万人なのに対し、「にぎわいの森」の19年5月18日(オープン)から20年3月末の入込客数は約44万人であるから、人気のほどがうかがえる。



(上)敷地内の小屋風店铺



(下)新庁舎

からの有名店の出店である」とも話題となった。中には元

の店を壇んで出店、いなべ市

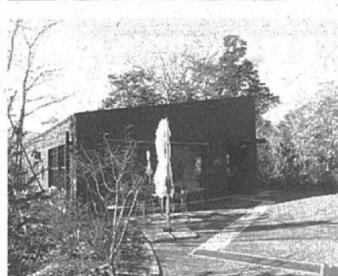
に移住というオーナーもい

ていた。テレビでも取り上げられていた。

18年のいなべ市全体の総観光入込客数が約43万人なのに対し、「にぎわいの森」の19年5月18日(オープン)から20年3月末の入込客数は約44万人であるから、人気のほどがうかがえる。



(上)敷地内の小屋風店铺



(下)新庁舎